

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 22 年度

事業所番号	2790200014		
法人名	社会福祉法人 気づき福祉会		
事業所名	グループホーム野田いやし園		
所在地	大阪市福島区野田5丁目15-20		
自己評価作成日	平成 22年 10月 20日	評価結果市町村受理日	平成 22年 12月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 22年 11月 9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して1年を迎えました。ホームはほぼ1年で満床となり徐々に特徴が出てきたのではないかと考えています。運営方針の「わが家のように気ままにのんびり」は、一人ひとりの個性を持った入居者が少しでも気ままにのんびりと暮らすことができるホームを目指しています。具体的には、行きたい時に外出ができる。時には外食や喫茶店にも自由に行く事ができる。ホーム内でも好きな時に入浴ができる。まずは自宅であたり前にできる生活をホームに入っても継続できる援助を目指しています。また、地域との関わりを大切にだんじりや盆踊りと地域の行事にも参加しています。医療面の連携も充実しており24時間オンコール体制でご家族に安心していただけるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社宅を改造した豪華な外観のグループホームで、社会福祉法人が運営しています。開設して1年ほどですが、法人のバックアップと職員の努力で、利用者や家族、地域との関係は非常によく、うまく事業展開しています。真向かいには小学校の校庭があり、元気よく遊びまわっている子どもたちの様子が目に入ります。駅も近く、近隣には商店街や中央卸売市場、川堤など散歩にはいい立地条件となっており、外出に力を入れています。地域に受け入れられるよう、開設準備段階から周到な準備を重ねてきました。社会資源の発掘などにあたり、開設当初から地域の熱心で温かいサポートを得ることができています。リビング兼食堂は少し手狭で雑然としていますが、居心地よく家庭的な雰囲気です。利用者は外出に精を出し、職員の調理した美味しい食事をいただき、優しい介護とかかりつけ医師による往診診断、職員として配置されている看護師の24時間オンコールの看護を受け、会話が活気があるなかで、安心してのんびり過ごしています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「わが家のように気ままにのんびり」でき、入居者が幸せに楽しく生活できるホームにしたいと全職員で考え、会議等で共有し実践できるよう日々努力している。	「わが家のように気ままにのんびり」をホームの理念としています。定例の全体会議やカンファレンス、研修会、毎日の業務を通じて方針を共有し、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう家族、地域の人たちと共に支えています。	地域密着型サービスの意義をふまえた表現を盛り込んだ事業所理念を作り、職員全員で理念を共有し、家族、地域住民と共に理念に沿った介護サービスの実践に取り組まれてはいかがでしょうか。また、職員が日常的に目につく場所に理念を掲示することが望まれます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	この地域はだんじりや盆踊りが盛んで、地域の行事に積極的に参加している。また、町会長や副会長にもご協力いただき自然なかたちで地域と触れ合うことができるようにしている。	地域に受け入れてもらえるよう、開設準備段階から周到な準備を重ねてきました。社会資源の発掘などにあたり、開設当初から地域の熱心で温かいサポートを得ることができています。初年度から地域のだんじり祭りや盆踊りにも参加し、地元の医師や商店の協力も得ています。	利用者が地域のボランティアとの交流ができるように、地域の老人会や女性会(婦人会)等に働きかけられてはいかがでしょうか。また一歩踏み出して、例えば事業所が地域密着型サービスとして地域福祉の拠点となり、地域住民や家族に向けた、「介護」や「認知症」などの教室を開催したり、介護相談に応じたりするなどして、地域に貢献することを検討されてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において地域との交流を図り、入居者の方々を知って頂き認知症の人への理解をしていただけるよう取り組んでいるが、支援の方法や勉強会等をホームで実施するような取組はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p><b>○運営推進会議を活かした取り組み</b>            運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議で、入居者の近況報告をさせていただいている。その評価やご意見を参考にして、サービス向上に向けて努力している。</p>	<p>開設後1年ほどですが、運営推進会議は地域包括支援センター職員、町会長などの地域代表、地域のかかりつけ医師、商店主、家族、利用者の協力のもと、2ヵ月毎に順調に開催されています。会議ではホームの運営状況や行事、利用者の生活ぶり、事故状況の報告を行い、医療機関との医療連携体制や看取り体制のスタート方針、職員の研修内容などについて説明しています。</p>	
5	4	<p><b>○市町村との連携</b>            市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>福島区の事業者連絡会に参加し、連絡を取るようになっている。また、事故等事業所の実情を積極的に伝え協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>区の事業所連絡会に参加し、交流・情報交換をしています。地域包括支援センターの呼びかけで、12月に立ち上がる入居系施設の連絡会にも参加する予定です。事故報告書については利用者の属する区の介護保険担当者に提出し、運営推進会議の議事録については年度分まとめて市に届ける予定です。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b>                      代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束は行っていない。                      居室のベランダ及び玄関の施錠は行わず、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、身体拘束となる具体的な行為の理解に努めている。</p>	<p>身体拘束のないケアを目指しています。玄関ドアやエレベーターは開錠しており、外出願望のある利用者には見守りと外出で対応しています。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b>                      管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待について、学ぶ機会を設けていく。決して虐待が起きないように、全員で話し合い、また共有していく。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b>                      管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修等の実施はできていないが、成年後見制度及び日常生活自立支援事業を活用している入居者との関わりを通じて理解を深めている。</p>		
9		<p><b>○契約に関する説明と納得</b>                      契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結ぶ際に、時間をかけて解りやすい説明努力はしている。解らない点があれば、随時お答している。解約事例はない。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p><b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b></p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族からの意見、苦情、相談などを気軽に話せるように、日頃からご家族との良好なコミュニケーションを大切にしている。また、家族会も実施している。</p>	<p>開設して1年ほどですが、家族とのコミュニケーションは良好で、家族との面会時には利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の健康や安全に関わる事項については、その都度家族へ電話で報告しています。また、多くの家族が参加する運営推進会議や家族会でも、家族が思いや希望、不満を表せるようにしています。意見箱も設置し、年度内に広報誌の発行も予定しています。</p>	<p>家族には毎月、ホームの連絡事項や行事等の報告とともに、利用者の生活状況・身体状況・受診状況等について、職員が手紙を作成して送付されてはいかがでしょうか。また介護計画の見直しの時に実施するサービス担当者会議に家族の参加を要請されてはいかがでしょうか。</p>
11	7	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b></p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回、全体会議を実施している。各職員の意見や提案を聞く機会を設け反映するように努めている。</p>	<p>職員とは定例の全体会議で業務の改善課題や研修、行事の企画などについて話し合っています。また、半年に1回、職員と個人面談を実施し、資格取得支援や資格手当の制度もあります。資格を所持する職員を多数採用し、常勤職員として入職するなどの配慮をしています。</p>	
12		<p><b>○就業環境の整備</b></p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>人事考課制度およびキャリアパスを導入し、向上心を持って働けるよう整備に努めている。</p>		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップのために、年度研修計画を立て機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪市グループホームネットワークに加盟し、ネットワークづくりや勉強会に参加している。また、区内のグループホームとの連携にも力を入れ、互いにサービスの質を向上させていけるよう取り組む。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に本人自身との面談を行っている。自宅での生活ができる限り継続してホームでも行えるように、傾聴し本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様にご家族も面談を行い、時間をかけて、悩んでいることやサービスへの要望を聞き出せるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活上必要とする支援内容の整理および初期対応の見極めを行い、職員で協議し介護計画を立案している。また、他のサービス利用も視野に入れながらの対応にも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当ホームが第2のわが家に思っていただけのような対応に努め、共に過ごし支えあう関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者をホームとご家族と一緒に支える事を大切にしている。具体的には、いつでもご家族と外出に行く事ができるように配慮したり、ご家族が受診に行く際は職員も同行する。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族を通じて馴染みの場所・人を聞きだし、職員で行ける範囲は入居者とともに出かけたりしている。また、知人の方にもホームに気軽に宿泊できるように努め、宿泊されることもある。	利用者が大切に、大事に思う馴染みの人や場所を聞き取って支援につなげています。昔住んでいた自宅へ行ったり、他施設に入所した家族と合流して行事の支援を行っています。昔一緒に楽しみ、活躍していたゲートボールの仲間を訪ねたいという希望を聞き取っています。しかし全職員が共有できるような情報の記録にはなっておらず、介護計画にも反映されていません。	開設後1年が経過し、職員の入れ替わりもあることから、各利用者から聞き取った馴染みの人や場所の情報を全職員が共有できるよう記録の方法を工夫することが期待されます。今後は、関係の継続を支援するために、介護計画に反映されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲立ちし話題提供を行い、入居者同士が関わりを持てるように配慮している。また、仲の良い方で散歩や喫茶店行く		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	途中退所された入居者は、現在のところはないが、関わったご家族や関係機関との関わりは大切にするように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や本人に思いや暮らし方の公方、意向を聞き取り介護計画を作成したり、看取りについて、今後の方針等を話し合い、職員間でも意志統一できるように努めている。	看取りも含めて利用者の希望や意向を聞き取り支援につなげる努力をしていますが、全職員が共有し支援できるような分かりやすい記録にはなっていない状況です。	今後は、全職員が共有できる情報にするためにも、各利用者の思いや意向を改めて聞き取ることが期待されます。例えばセンター方式の「私の姿と気持ちシート」等を活用して、家族と全職員で作成してみてはいかがでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、ご家族や本人に生活歴、1日の過ごし方、既往歴、馴染みのある物・人、好物等の情報を聴取している。又、入居者に関わった、介護事業所、主治医からも情報を頂き、ホームでの生活に反映できるように努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常日頃から、各入居者の暮らしを観察し、その人らしい暮らしになるように把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を中心に職員間で意見を交わし介護計画を作成している。担当者は本人やご家族、必要な関係者と話し合いを行っている。介護計画の変更や更新の際にモニタリングを実施している。	開設後はじめての介護計画見直しの時期にさしかかり、現在見直しの作業を行っています。また状態の変化がある時は、その都度見直しを行っています。毎月フロア毎に全職員でカンファレンスを行い、利用者毎の担当者と計画作成担当者がモニタリングを行い、介護計画の見直しにつなげています。	介護計画の個別の援助項目を職員に徹底するとともに、職員によるモニタリングの実施が望まれます。徹底策の一例として、利用者毎の日報用紙に介護計画の援助内容を盛り込み、実践内容を計画と関連付けて日々記録するなどの方法を検討されてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、ケース記録に生活の状況、状態、受診記録や内服薬の変更、身体状態や些細な変化を細かく記載するように努め、情報共有や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や特別な外出や住環境等、入居者やご家族の希望に応じて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の内科、整形外科、皮膚科、眼科、歯科などの健康面、地域包括との連携やあんしんサポートの利用など安全で豊かな暮らしができるよう援助している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の野田診療所との信頼関係が築いている。医師は運営推進会議で家族の要望も聞いている。遠方のご家族が受診に行くが、必要に応じて同行したり、日々の様子を丁寧にご家族に報告するよう努力している。	利用者は新たにかかりつけ医となり、運営推進会議にも参加している地域の診療所の医師による往診医療と、職員として配置している看護師によるオンコール体制での24時間の看護を受けています。診療科目によっては、家族の依頼で入居以前のかかりつけの医療機関への通院介助をしています。協力医療機関と連携し、夜間や急変時の対応についての体制も整備しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は、必要な医療情報をまとめ介護職員に健康面での留意事項を伝達。相談ができる体制をとっている。また、オンコール体制でいつでも相談できる。また、介護職員は日々の健康状態を観察し看護師との密な連携に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	事前にご家族から希望の入院先を聞いている。必要な場合は、主治医と連携を取り必要な情報を主治医から入院先の医療機関に情報提供していただいている。入院後は定期的に介護職員が面会し病院との連携を図るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を作成し、入居者及びご家族に説明。また、終末期の意向を聞き取りしている。主治医にも事業所が看取りに取り組む意向を説明し、往診やオンコールの体制を整備しチームで援助ができるように準備している。	今年の8月にホームとして看取り指針を取り決め、かかりつけ医の協力のもと、看取りの体制を整えています。また利用者や家族に説明をするとともに、意向を確認しています。今後利用者が重度化した場合、できるだけホームでの生活が続けられるよう、状況の変化とともに、利用者や家族、医師、看護師、職員間で話し合いを行い、方針を共有し対応していく予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について施設内研修の実施。施設外研修にも参加している。事故発生時の対応マニュアルを整備し、迅速な対応ができるよう備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害計画に基づき、日中及び夜間想定避難訓練を実施している。また、運営推進会議で避難訓練を実施、地域との協力体制を築いている。	災害に備えるマニュアルを作成し、年に2回消防署の指導を受け避難訓練を実施しています。訓練では夜間を想定したり、運営推進会議に参加している地域の人も一緒にするなどの工夫をしています。災害時の備蓄については実施できていない状況です。	備蓄については、非常用食料や飲料水等、2日分以上備蓄することが望まれます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの尊重とプライバシーの確保ができるよう、日々言葉かけに注意し職員で話し合っている。また、尊厳についての研修も実施している。	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員の言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。個人情報取り扱いについても職員に書面で周知徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常日頃から、何をしたいのか等の要望を聞き、入居者から思いが引き出せるように努力している。認知症のため希望の表出ができない方には、生活歴等を参考にしながら、少しでも希望を表出できるように声かけするように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの日常生活のパターンを決めるのではなく、主体は入居者にあり、それに対応する人員の配置及び援助ができるよう努力している。具体的には行きたい時に外出ができる援助に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容については、今まで通っていた理髪店に行ったり、地域の理髪店に行くようにしている。また、職員とともに身だしなみをコーディネートするように努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に食事の準備や片付けをしている。また、喫茶店に行ったり出前や外食の援助もしている。	食事は食材を業者から取り寄せ、職員が調理しています。利用者は野菜の下ごしらえ、食事準備、後片付けなどの得意な分野で分担しながら参加しています。職員は利用者と同じ物を食べながら、利用者の食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートをさりげなく行い、会話をしながら楽しく和やかな雰囲気を作っています。また行事の度に外食や弁当を楽しみ、家族との外食も楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理を行う時は、バランスのとれた食事を提供できるように心がけている。また、職員には法人の管理栄養士からの栄養についての研修も実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。また、協力歯科医院との連携を図り、往診や受診の援助も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄が行えるような援助を心がけ、介護計画を立案し統一した援助を実践することで排泄の自立ができるよう援助に努めている。	排泄の記録を取り、利用者の排泄パターンや習慣を把握して誘導を確実に行っています。現在は元気な利用者が多く自立の人がほとんどで数人の人が見守りとなっていて、大半の人は布パンツでの生活が維持できています。夜間帯は職員を2名体制にして見守りを強化しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容を工夫し、薬に頼らず自然排便に繋がるよう努力している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は決めずに、希望に沿った入浴ができるように援助している。また、入浴嫌いの方にも声かけの工夫をしながら清潔が保持できるよう取り組み必要な場合は足浴を実施している。銭湯への外出も実施した。	利用者は平均して週3回入浴し、ほとんど毎日入浴している人もいます。入浴を好まない人にも声かけの工夫により、週1～2回の入浴ができています。街の銭湯に出かけ楽しむこともあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温室、音等に配慮し安眠や休息ができるように努力している。現在不眠が続く方や昼夜逆転している方はいない。夜間ゆっくり眠れるように日中活動的に過ごしてもらうよう取り組んでいる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師より薬の内容、服薬方法、副作用についての周知を図っている。また、内服薬に変更があった場合は症状の観察を行うように徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の援助に努めている。好きな物を食べに行ったり、カラオケに行ったりと外出に力を入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と協力しながら外出の支援に力を入れている。中には一日3回散歩に出かける入居者もいる。生活に意欲を持ってもらえるように1泊旅行も検討している。是非達成したい。	外出支援に力を注ぎ、毎日徒歩で周辺を散歩しています。時には1日2～3回散歩に出かけることもあります。毎月の行事として遠出も多く実行されていて、一泊旅行の予定もあります。今後は個別の外出企画にも力を入れる予定です。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に説明し、お金を持ちたいと希望されるかたにも日常的に持ってほしい、買い物の援助もしている。また、外出の際は本人の財布を持ってもらい外出する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	年賀はがきを大切な人に出してもらったり、手紙のやりとりや電話ができるように援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	改築した建物であるため、できる限り家庭的な雰囲気でも過ごしてもらえるように工夫している。また、環境整備を徹底し不快や混乱の内容に配慮している。	社宅を改装した豪華な外観のホームは、駅にも近く、真向かいには小学校の校庭があり、子どもが元気よく遊びまわっている様子を見ることができます。近隣には商店街、中央卸売市場、川堤など、散歩先には不自由をしない立地になっています。リビング兼食堂は少し手狭で雑然としていますが、居心地のよさそうな家庭的な雰囲気、会話があり活気があります。ソファやベンチなど、セミパブリックスペースも確保しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、馴染みの関係にある入居者が21時ごろまでゆったりとくつろいでいる。リビング以外の場所が狭いが、ソファを設置しそこでゆっくりしている入居者もいるが改善は必要である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に自宅にあった馴染みの物や使い慣れたものを持って頂くように声かけし、畳をしいている入居者もいる。また、茶碗や湯のみ等も自宅で使用していたものを持参していただいている。	居室には利用者自筆の木製の表札がかかり、室内には利用者が持ち込んだ自身のベッド、整理ダンス、机、椅子、座敷机、仏壇、装飾品、家族の写真、テレビ、時計等があり、個性的な居室になっています。居室でお経を唱えたり、家族の持ち込んだ算数ドリルやぬりえに興ずるなど、思い思いに過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行える事はすべて行っていただいている。逆にできないことについては、限界を作らず、時間をかけて一緒に行い、自立した生活が送れるように工夫し援助している。		